

<p><研究課題名></p>	<p>A-0901 (B-091)</p>	<p>航空レーザー測距法による森林地上部・地下部全炭素収支の解明</p>		
<p><研究概要> インドネシア中央カリマンタン州の荒廃熱帯泥炭湿地林およびカナダ西部亜寒帯林を対象に、異なる二時点における地形と樹冠の縦断形状を航空レーザーで測定し、各時点の森林縦断形状（＝樹冠面－地形面）から当該時点の地上部炭素蓄積を、森林縦断形状と地形面それぞれの二時点間の差から地上部、地下部それぞれの炭素収支を明らかにする。さらに以上の知見に基づき、現状の高炭素森林管理を続けた場合の炭素収支の将来予測を行うとともにその社会的な問題点を明らかにし、これを低炭素管理に導くための制度設計を行う。 (1) 航空レーザー測距法による森林全炭素収支の解明に関する研究 本研究の根幹部分を成す航空レーザー測距法による森林の立木蓄積と炭素収支の推定を行う。熱帯泥炭湿地林では計画初年度と第三年度に同一対象の反復測定を行い、各時点の炭素蓄積の差として炭素収支を明らかにする。亜寒帯林では変化量の少なさと予算的制約から、期首測定には2003年の測定値を用い、期末測定を計画第二年度に行い、炭素収支を明らかにする。 (2) 低炭素社会における森林管理・森林政策への反映に関する研究 上記サブテーマ (1) による熱帯林と亜寒帯林の炭素収支推定の結果を踏まえたうえで、現状の高炭素森林管理を続けた場合の炭素収支の将来予測を行うと共にその社会的な問題点を明らかにし、これを低炭素管理に導くための制度設計を行う。</p>				
<p><研究代表者></p>	<p>末田 達彦</p>		<p>愛媛大学農学部教授（62才）</p>	
<p>No.</p>	<p>サブテーマ名</p>	<p></p>	<p>氏名</p>	<p>所属機関名・部局・役職名</p>
<p>(1)</p>	<p>航空レーザー測距法による森林全炭素収支の解明に関する研究</p>	<p>◎</p>	<p>末田 達彦 二宮 生夫 林 和男 都築 勇人 嶋村 鉄也</p>	<p>愛媛大学農学部教授 愛媛大学農学部教授 愛媛大学農学部教授 愛媛大学農学部准教授 愛媛大学農学部准教授</p>
<p>(2)</p>	<p>低炭素社会における森林管理・森林政策への反映に関する研究</p>	<p>○</p>	<p>天野 正博</p>	<p>早稲田大学環境総合研究センター教授</p>